

政策評価シート（令和元～4年度）

分野	3 商工・物流
----	---------

評価責任者	所属	経済局
	氏名	稲葉 光

政策	3 陸・海・空の社会基盤を活かしたロジスティクス産業の拡大を推進します
政策の目的	<p>【大規模社会資本の整備と活用】</p> <p>○新東名高速道路や中部横断自動車道などの高規格幹線道路及び清水港の整備が進んでいます。</p> <p>○富士山静岡空港の利活用が求められています。</p> <p>○陸・海・空の社会基盤などの優位性を活かす物流機能を強化し、ロジスティクス産業の振興を進めていくことが求められています。</p>

(1) 総合評価

評価	A：政策の目的が達成されている
理由	ロジスティクス関連の企業誘致や、国内外への清水港ポートセールス等を通じて、ロジスティクス産業の拡大を推進した。成果指標としたロジスティクス産業の市内総生産額も目標値をすでに達成し、評価は「s」となるが、中部横断自動車道の開通等、今後も成長の可能性の大きい分野であり、政策の推進が継続して必要であることから、「A」評価とした。

※【評価基準】 S：政策の目的が十分に達成されている。A：政策の目的が達成されている。B：政策の目的があまり達成されていない。C：政策の目的が達成されていない。
 ※総合評価は、原則、指標の達成状況（達成率）に基づき判断する。ただし、指標の分析結果や指標以外の成果等により、指標の達成状況（達成率）と異なる評価とする場合は、その理由を必ず記載すること。

(2) 成果指標

指標名	現状値	R4目標値	実績値 (R4.3末時点)	達成率(%) (R4.3末時点)	評価	目標値の算出根拠
ロジスティクス産業の市内総生産額 現状値：2,137億円(2014) 目標値：2,158億円(2022)	2,137億円 (2014)	2,158億円 (2022)	2,727億円 (2018)	126.4%	S	H22～26の運輸業の市内総生産額が4年約1%増で推移していたため、現状値から1%増の2,158億円を設定した。
					—	

※【評価基準】 s：既に目標値を達成している、a：目標値を達成する見込みである、b：目標値をやや下回る見込みである、c：目標値を大幅に下回る見込みである

(3) 第4次総合計画に向けた見直し等

<p>○第3次総合計画期間中に、中部横断道路が全面開通となり、山梨県、長野県方面とのアクセスが向上した。清水港は、コンテナ取扱数の増加などの機能強化に向けた整備を進めているところであり、清水港を中心とした広域物流の実現に向け、他県へのポートセールスやロジスティクス関連企業の誘致に向けた環境整備を推進していく。</p>

(4) 政策を構成する施策及び主要事業

施策1	ロジスティクス産業の振興		
総合評価結果	R元	R2	R3
	S	S	B

施策2	清水港を中心とした広域物流の促進		
総合評価結果	R元	R2	R3
	A	A	A

施策3	ロジスティクスを支える社会資本整備の推進		
総合評価結果	R元	R2	R3
	A	A	A

施策評価シート（令和元年度～4年度）

分野	3 商工・物流
----	---------

評価責任者	所属	経済局 商工部 産業振興課
	氏名	課長 石川 賢一

政策	3 陸・海・空の社会基盤を活かしたロジスティクス産業の拡大を推進します
----	-------------------------------------

施策	1 ロジスティクス産業の振興
----	----------------

施策の目的	近年の経済のグローバル化の進展を踏まえ、国内外の新たなマーケットへの進出を目指し販路開拓活動等に意欲的に取り組む中小事業者の後押しを行うとともに、その成果を情報発信し、他の事業者の意識啓発・気運情勢につなげていくことにより、本市経済の活性化を図ります。
-------	--

（1）総合評価

総合評価	令和元年度	S：施策の目的が十分に達成されている。	理由	ロジスティクス関連産業の立地のため、官民連携によるポートセールス及び清水港利活用促進や経営課題解決のためのセミナーを開催したことで、令和元年度は目標値2件に対して3件の立地となり、本事業の効果が表れ目標達成となったことから総合評価はSとした。
	令和2年度	S：施策の目的が十分に達成されている。	理由	ロジスティクス関連産業の立地のため、官民連携によるポートセールス及び清水港利活用促進や経営課題解決のためのセミナーを開催したことで、令和2年度は目標値1件に対して5件の立地となり、本事業の効果が表れ目標達成となったことから総合評価はSとした。
	令和3年度	B：施策の目的があまり達成されていない。	理由	目標値は達成しなかったが、中部横断自動車道開通に伴う静岡・山梨の企業交流イベントを初開催し、新たな物流・サプライチェーンの創出を促し、市内のロジスティクス産業の活性化を推進したため、評価はBとした。
	令和4年度	—	理由	—

※【評価基準】 S：施策の目的が十分に達成されている。A：施策の目的が達成されている。B：施策の目的があまり達成されていない。C：施策の目的が達成されていない。—：評価できない。
 ※総合評価は、原則、指標の達成状況（達成率）に基づき判断する。ただし、指標の分析結果や指標以外の成果等により、指標の達成状況（達成率）と異なる評価とする場合は、その理由を必ず記載すること。

（2）成果指標

	指標名	現状値	年度	目標値	実績値	達成率（%）	評価	目標値の算出根拠
			1	2	3	150.0%	s	
成果指標	ロジスティクス関連企業立地件数	1件 (平成30年度)	2	1	5	500.0%	s	第3次総合計画 3商工物流 0301ロジスティクス産業の振興にて、ロジスティクス関連企業立地件数期間計5件（H31-R4）と位置付けられているため、初年度目標件数2件とし、次年度以降は1件とする。
			3	1	0	0.0%	b	
			4	1	—	—	—	
			1					
指標成果以外の			2					
			3					
			4					
			1					

※【評価基準】 s：105%以上、a：95%以上105%未満、b：85%以上95%未満、c：70%以上85%未満、d：70%未満

(3) 施策を構成する主要事業

主要事業名	主な活動内容	優先順位	年度	現計予算額	前年度からの繰越額	決算額	人工			達成状況
							正規	非常勤	臨時	
ロジスティクス産業立地促進事業	①官民連携によるポートセールス活動 ②静岡・山梨 官民連携ビジネス交流会を開催	1	1	1,754	0	703	0.7	0.0	0.0	◎
			2	1,140	0	473	0.7	0.0	0.0	
			3	1,083	0	281	0.7	0.0	0.0	
			4	—	—	—	—	—	—	
企業立地促進事業費助成事業	市内に工場等を新增設、事務所等を賃借した企業等に対する助成 ①工場等設置事業、②事務所賃借事業、③民間団地開発促進事業、④本社機能移転・拡充事業	1	1	589,219	0	541,010	0.6	0.5	0.0	◎
			2	550,200	0	462,048	0.6	0.5	0.0	
			3	492,000	0	473,189	0.6	0.5	0.0	
			4	—	—	—	—	—	—	
企業立地用地開発推進事業 (平成29年度までは企業立地用地検討調査事業)	①企業立地適地の発掘、開発検討 大規模開発検討候補地「竜南地区」の開発検討 ②小規模候補地の用地プロモーション 企業や開発事業者等に向けた用地プロモーション	2	1	9,606	0	5,402	1.0	0.0	0.0	○
			2	1,052	0	0	1.0	0.0	0.0	
			3	9,911	0	7,810	1.0	0.0	0.0	
			4	—	—	—	—	—	—	
			1							
			2							
			3							
			4							
			1							
			2							
			3							
			4							

※主要事業の優先順位は、各施策の目的や指標を達成する上で、重要度、貢献度などの観点から高いものから順位とする。

※達成状況の凡例 (◎：計画より進んでいる、○：計画どおり進んでいる、△：計画より遅れている、－：計画上実施時期が到来していない、新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった)

(4) 今後に向けた見直し等

年度	課題	見直しの方向性
令和元年度	新型コロナウイルス感染症の影響に伴い、対面による本市物流環境に関するPR活動や物流事業者を集めたセミナーの実施判断が難しくなることから、今後の活動内容について再検討が必要となる。	「物流攻略拠点」静岡を市内外へ発信するため、清水港利用促進協会との連携強化を図り、オンラインを有効に活用した新しい手法によるセミナーやPR活動を検討していく。
令和2年度	【ロジスティクス産業立地促進事業】 新型コロナの影響で、企業訪問といった活動が大きく制限される中、令和3年度には中部横断自動車道の全線開通が予定されていることから、「物流攻略拠点」としての物流ポテンシャルの高さ及び本市立地優位性のさらなるPRが必要である。 【企業立地用地開発推進事業】 新型コロナウイルス感染症拡大により、企業の設備投資計画の見直しが発生したため、大規模開発検討候補地である竜南地区において企業の立地ニーズが不透明な状況が発生している。	【ロジスティクス産業立地促進事業】 清水港利用促進協会やロジスティクス協会との情報交換を随時実施し、中部横断自動車沿線の甲信越地方への効果的なPRを検討するとともに、オンラインやセミナー参加による積極的な情報発信を行う。 【企業立地用地開発推進事業】 大規模開発の検討を一時中断し、必要性の裏付けとなる企業の立地ニーズや本市への進出意向を適切に把握するため、企業立地ニーズ調査を行う。
令和3年度	【企業立地用地開発推進事業】 新型コロナウイルス感染症拡大により、企業の設備投資ニーズに変化が生じているため、市内外の企業に対し立地ニーズ調査を実施。今後はこの調査結果を基に竜南地区の開発を見極めていく必要がある。	【企業立地用地開発推進事業】 一旦立ち止まっていた竜南地区の開発を検討するため、企業立地ニーズ調査等の結果をもとに、地域住民とともに当該地区のあり方を考えるもとなる開発イメージの素案を作成する。
令和4年度	—	—

施策評価シート（令和元年度～4年度）

分野	3 商工・物流
政策	3 陸・海・空の社会基盤を活かしたロジスティクス産業の拡大を推進します
施策	2 清水港を中心とした広域物流の促進
施策の目的	清水港は全国で18港湾が指定される国際拠点港湾として、国際海上輸送網の拠点を担っています。日本の中心に位置し、東名高速道路・新東名高速道路に近接する好立地条件に加え、今後、中部横断自動車道路の開通による交通ネットワークの充実と相まって、ますます利便性の向上が期待されます。一方で経済のグローバル化の進展など、物流を取り巻く環境が大きく変化している中、ロジスティクス産業の振興を進めるためには、清水港の優位性を活かした物流機能を強化し、国内外を視野に広域物流の促進を目指します。

評価責任者	所属	経済局 海洋文化都市推進部 海洋文化都市政策課
	氏名	課長 谷川原 賢一

（1）総合評価

総合評価	令和元年度	A：施策の目的が達成されている。	理由	・コンテナ航路助成金およびコンテナ貨物輸出入事業助成金の見直しを図り、船会社や荷主の需要に応えたことにより、成果指標を概ね達成することができた。 ・清水港利用促進協会において定期的に検討会議等を開催し、官民関係者の情報共有や意思統一を図り、船会社や荷主に対して戦略的に誘致活動を行った結果、成果指標を概ね達成することができたことから、評価はAとした。
	令和2年度	A：施策の目的が達成されている。	理由	・コロナ禍の影響で航路数、コンテナ取扱個数とも目標は下回るも、コンテナ航路助成金およびコンテナ貨物輸出入事業助成金の見直しを図り、船会社や荷主の需要に応えたことにより、昨年度を上回る新規切替件数となった。 ・清水港利用促進協会においては定期的に検討会議等を開催し、官民関係者の情報共有や意思統一を図った。また、コロナ禍の状況の中、新たな取組として、Webを活用したセミナーを開催する等、清水港の利用促進に務めたことから、評価はAとした。
	令和3年度	A：施策の目的が達成されている。	理由	・新型コロナウイルスの影響でサプライチェーンが混乱する中であったが、目標を達成することができた。 ・官民でつくるポートセールス実行委員会の活動を支援し、セミナー開催においてWeb視聴も取り入れたり、新たに佐久市・松本市でセミナーを実施するなど、コロナ禍においても積極的にポートセールスを展開できたため、A評価とした。
	令和4年度	—	理由	—

※【評価基準】 S：施策の目的が十分に達成されている。A：施策の目的が達成されている。B：施策の目的があまり達成されていない。C：施策の目的が達成されていない。—：評価できない。
※総合評価は、原則、指標の達成状況（達成率）に基づき判断する。ただし、指標の分析結果や指標以外の成果等により、指標の達成状況（達成率）と異なる評価とする場合は、その理由を必ず記載すること。

（2）成果指標

成果指標	指標名	現状値	年度	目標値	実績値	達成率（%）	評価	目標値の算出根拠
			1	2	3	4		
成果指標	コンテナ船航路数	26航路 (令和元年度)	1	27	26	96.3%	a	直近3ヶ年の実績の平均を目標値として設定
			2	27	26	96.3%	a	
			3	26	26	100.0%	a	
			4	26	—	—	—	
	コンテナ取扱個数（TEU）	557,400TEU (令和元年度)	1	542,116	557,400	102.9%	a	直近3ヶ年の実績の平均を目標値として設定
			2	555,466	514,237	92.6%	b	
			3	546,366	562,610	102.9%	a	
			4	544,749	—	—	—	
指標 成果 以外の			1					
			2					
			3					
			4					

※【評価基準】 s：105%以上、a：95%以上105%未満、b：85%以上95%未満、c：70%以上85%未満、d：70%未満

（3）施策を構成する主要事業

主要事業名	主な活動内容	優先順位	年度	現計予算額	前年度からの繰越額	決算額	人工			達成状況
							正規	非常勤	臨時	
清水港ポートセールスの推進	広域物流の促進に向けた国内外でのセミナー等の開催	1	1	11,588	0	5,485	1.0	0.0	0.0	○
			2	7,148	—	493	1.0		0.0	
			3	9,014	0	643	1.0		0.0	
			4	—	—	—	—		—	
清水港コンテナ航路誘致事業	新たに清水港を利用する船社・荷主に対する港湾使用料の助成	1	1	50,000	0	44,965	0.3	0.0	0.0	○
			2	50,000	0	50,000	0.3		0.0	
			3	50,000	0	32,353	0.3		0.0	
			4	—	—	—	—		—	
			1							
			2							
			3							
			4							
			1							
			2							
			3							
			4							

※主要事業の優先順位は、各施策の目的や指標を達成する上で、重要度、貢献度などの観点から高いものから順位とする。

※達成状況の凡例（◎：計画より進んでいる、○：計画どおり進んでいる、△：計画より遅れている、—：計画上実施時期が到来していない、新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった）

(4) 今後に向けた見直し等

年度	課題	見直しの方向性
令和元年度	なし	
令和2年度	なし	
令和3年度	・清水港からの輸出入圏内である山梨県、長野県の貨物の多くが他港を利用している。	・中部横断自動車道が開通したことにより、時間的なメリットがさらに高まったことから、荷主への助成を充実することと合わせ、山梨県、長野県の荷主に向けた周知を清水港利用促進協会等と図る。 ・新たに中央卸売市場に整備された冷蔵施設を活かし、山梨県、長野県方面からの農産物の輸出を促進する。
令和4年度	—	—

施策評価シート（令和元年度～4年度）

分野	3 商工・物流
----	---------

政策	3 陸・海・空の社会基盤を活かしたロジスティクス産業の拡大を推進します
----	-------------------------------------

施策	3 ロジスティクスを支える社会資本整備の推進
----	------------------------

施策の目的	清水港は全国で18港湾が指定される国際拠点港湾として、国際海上輸送網の拠点を担っています。日本の中心に位置し、東名高速道路・新東名高速道路に近接する好立地条件に加え、今後、中部横断自動車道の開通による交通ネットワークの充実と相まって、ますます利便性の向上が期待されます。経済のグローバル化の進展など、物流を取り巻く環境が大きく変化している中、陸・海・空の社会基盤を活かしたロジスティクス産業の拡大を推進するためにも、港湾管理者の県や関係者と連携を図りながら清水港の整備推進を目指します。
-------	---

評価責任者	所属	経済局 海洋文化都市推進部 海洋文化都市政策課
	氏名	課長 谷川原 賢一

（1）総合評価

総合評価	令和元年度	A：施策の目的が達成されている。	理由	目標を大きく上回ったが、国・県に対する交付金の追加交付といった外部的要因によるものであるため。
	令和2年度	A：施策の目的が達成されている。	理由	目標を大きく上回ったが、国・県に対する交付金の追加交付といった外部的要因によるものであるため。
	令和3年度	A：施策の目的が達成されている。	理由	目標を大きく上回ったが、国・県に対する交付金の追加交付といった外部的要因によるものであるため。
	令和4年度	—	理由	—

※【評価基準】 S：施策の目的が十分に達成されている。A：施策の目的が達成されている。B：施策の目的があまり達成されていない。C：施策の目的が達成されていない。—：評価できない。
 ※総合評価は、原則、指標の達成状況（達成率）に基づき判断する。ただし、指標の分析結果や指標以外の成果等により、指標の達成状況（達成率）と異なる評価とする場合は、その理由を必ず記載すること。

（2）成果指標

成果指標	指標名	現状値	年度	目標値	実績値	達成率（％）	評価	目標値の算出根拠
			1	37.5%	40.9%	109.1%	s	
2	41.3%	44.8%	108.5%	s				
3	46.9%	46.30%	98.7%	a				
4	54.0%	—	—	—				
指標成果以外の			1					
			2					
			3					
			4					

※【評価基準】 s：105%以上、a：95%以上105%未満、b：85%以上95%未満、c：70%以上85%未満、d：70%未満

（3）施策を構成する主要事業

主要事業名	主な活動内容	優先順位	年度	現計予算額	前年度からの繰越額	決算額	人工			達成状況
							正規	非常勤	臨時	
清水港の整備	清水港港湾整備に係る県への負担金 【県条例による負担金割合】 ①国直轄事業 5% ②県交付金事業 15%~1/3 ※一部起債対象外 ③県単独事業 30% ※一部起債対象外	1	1	620,468	0	620,468	0.8	0.0	0.0	○
			2	744,374	0	743,241	0.8	0.0	0.0	
			3	884,755	0	879,654	0.8	0.0		
			4	—	—	—	—	—		
			1							
			2							
			3							
			4							
			1							
			2							
			3							
			4							
			1							
			2							
			3							
			4							

※主要事業の優先順位は、各施策の目的や指標を達成する上で、重要度、貢献度などの観点から高いものから順位とする。

※達成状況の凡例 (◎：計画より進んでいる、○：計画どおり進んでいる、△：計画より遅れている、—：計画上実施時期が到来していない、新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった)

(4) 今後に向けた見直し等

年度	課題	見直しの方向性
令和元年度	これまで物流関連の整備が推進されていたが、近年は大型客船の受入環境に伴う整備や人工海浜・緑地の整備等の港の賑わい創出につながる港湾整備事業も求められており、市負担金の増加が見込まれる。	国直轄事業及び県事業に係る港湾整備事業に対する負担金として、「静岡県建設事業等市町負担金徴収条例」を基本とした負担金であるが、効果的・効率的な執行を依頼するとともに、速やかな情報提供を呼び掛けることにより、必要経費を確保していく。
令和2年度	これまで物流関連の整備が推進されていたが、近年は大型客船の受入環境に伴う整備や人工海浜・緑地の整備等の港の賑わい創出につながる港湾整備事業も求められており、市負担金の増加が見込まれる。	国直轄事業及び県事業に係る港湾整備事業に対する負担金として、「静岡県建設事業等市町負担金徴収条例」を基本とした負担金であるが、効果的・効率的な執行を依頼するとともに、速やかな情報提供を呼び掛けることにより、必要経費を確保していく。
令和3年度	これまで物流関連の整備が推進されていたが、近年は大型客船の受入環境に伴う整備や人工海浜・緑地の整備等の港の賑わい創出につながる港湾整備事業も求められており、市負担金の増加が見込まれる。	国直轄事業及び県事業に係る港湾整備事業に対する負担金として、「静岡県建設事業等市町負担金徴収条例」を基本とした負担金であるが、効果的・効率的な執行を依頼するとともに、速やかな情報提供を呼び掛けることにより、必要経費を確保していく。
令和4年度	—	—